

20023

EVT における単純 CT 画像および IB-IVUS のカラーマッピング(プラーク性状)の検討

**【目的】**当院では、単純 CT のカラーマッピング画像を EVT 時における画像診断支援ツールとして使用している。また、手技中の IB-IVUS でもプラークの質的評価を施行している。しかし、そのカラー表示の指標は、統一されていないのが現状である。そこで、単純 CT および IB-IVUS のカラーマッピング表示を一致させることを目的として検討を行ったので報告する。**【方法】**様々な性状のプラークを含んだ模擬血管ファントムを作成し、単純 CT および IB-IVUS を施行し、プラーク部に対して、CT は X-section image でのカラーマッピング画像と同部位の IB-IVUS の画像を作成した。IB-IVUS の画像を基準として、CT 画像のカラー表示の設定を IB-IVUS と同等となるような CT 値を求めた。**【結果】**単純 CT 画像の CT 値を適切に設定することで、IB-IVUS と同等の X-section image のカラー表示が可能であった。**【結論】**今回、単純 CT 画像と IB-IVUS のカラー表示を同等とし、術者に EVT 施行前に支援画像を提供することにより、使用するデバイスの選択および難易度を予想させることが可能となった。単純 CT 画像の CT 値を適切に設定し表示することは、従来の EVT 施行時の支援画像より、より臨床上有用であった。